

# 行政視察等報告書（個人用）

令和 4年 10月21 日

知立市議会議員 様

会 派 名	篤心会	氏 名	岩城道雄
視 察 先 ( 研 修 名 )	第84回全国都市問題会議（長崎市、出島メッセ）		
視 察 期 間 ( 研 修 期 間 )	令和 4 年 10 月 12 日 (水 ) ～ 14 日 (金 )		
視 察 経 費 ( 研 修 経 費 )			
内 容	<p>13日(木) 9:30開始                      ジャパネットホールディングス代表取締役社長兼 CEO、高田旭人氏の                      基調講演「民間主導の地域創生の重要性」</p> <p>11:00～12:00                      長崎県長崎市長田上富久氏「長崎の魅力あるまちづくり」</p> <p>12:10～13:00 昼食</p> <p>13:30～14:30                      鳥取県立大学地域政策学部准教授 田中輝美氏</p> <p>14:50～15:50                      山形県山形市長 佐藤孝弘氏</p> <p>15:50～17:00                      一般社団法人地域力創造デザインセンター代表理事 高尾忠志氏</p> <p>14日(金) 9:30開始                      ネルデスカッション                      テーマ個性を活か「選ばれる」まちづくり                      ～何度も訪れたい場所になるために～</p> <p>「コーディネーター」東京都立大学法学部教授 大杉覚氏                      「パネリスト」ゆとり研究所所長 野口智子                      山梨大学生命環境学部教授 田中敦                      NPO 法人長崎コンプラドール理事長 桐野耕一                      岐阜県飛騨市長 都竹淳也                      兵庫県伊丹市長 藤原保幸</p>		

所 感

高田社長の基調報告から、二日目のパネルディスカッションまで示唆に富む興味深い話で満ちていた。知立市は駅の高架事業とそれに続く駅周辺の整備事業を通して、魅力ある街づくりに着手している中で、誰もが初めての経験ではっきりした方向性を見出していない状況下で新しい

魅力的な街づくりに取り組んできた、各市長の話は常に興味深く、今後の知立市の街づくりプランのヒントになることが多かった。

ジャパネットたかたの高田氏の構想はまさに実業家としての面目躍如だった。民間主導の事業と、共事業の違いを「一方は最大の幸福を求めることであり、一方は平等の幸福を実現することである」と表現していたが、公と民の立場の違いを、自身の経験の中からうまく表現していた。今進行中の長崎スタジアムの数々のプランには驚きを禁じ得ない。世間でのスポーツの認知度が以前より、多様に広まっているとはいえ、スポーツ事業を文化的側面からも捉えており

慧眼である。日本のスポーツはプロ野球、その中に甲子園も含まれ、次にJリーグ、一見大風呂敷を広げたような構想には実感がもてなかった。が、その構想や理念と同じようなVリーグとBリーグを生んできた。今回の高田氏はこれまでの日本のスポーツ文化を凌駕し、日本社会に

新しいスポーツのあり方を提示しているような痛快さがあった。

そのあとの長崎市長の講演と、この構想はユニットを組んでいるように感じられた。この市長の先見性が長崎の観光都市の魅力を引き出し、市民に定着させ、その土台の後に、長崎スタジアム構想があると感じられ、期せずして、両者が絶妙にコラボしている。世の中にはこのような

意図しないが絶妙なコンビがあるが、それを垣間見た。

長崎は、広島とともに原爆が投下され、悲惨な体験をした。8月の戦没者追悼式が放映され講演者である田上市長も追悼演説をされる。同時に長崎はキリシタンの迫害の歴史があり、鎖国時代に出島を通して海外と交易があった。蝶々夫人の舞台でもあり、さだまさしの故郷であり、歌謡曲の名曲が生み出された町でもある。それらが全体として観光資源として活用されてきたま町という印象であった。

それが、160万余りの観光客が半分ほどに減り、国際観光都市から陥落する危機に瀕しているなどとは知らなかった。この苦境の時期に市長になった田上氏は役所での経験と自分の感覚を

町おこしに邁進する。その手始めが「長崎さるく」。市民による長崎の再発見であった。価値に気付き、価値を磨き、価値を高めることになった。また、「この長崎さるくに参加した他市の人も自分たち町の再発見につながった」というくだりは、この方の観察眼の確かさ故の発見あと感じ入った。旅行中は確かにいろいろなものを見る。名所を訪れる。その時、きれいだとか、見たことない歴史だとかを感じる。が、よく考えると、自分と対話もしている。観光地に来て、日常を忘れていたが、時に日常との話もしている。目の前の景色を見ながら、いつもの自分と対話している。長崎市はそんな風にして、他市にも長崎さるくの効果を及ぼしていた。

昼間人口、夜間人口は知っていたが、関係人口という考えは知らなかった。これは、何らかの形で、町にかかわる人のこと。観光以上移住以下のかかわり方。ここで語られた関係人口は

知立市には期待できない。あえて言えば、故郷納税参加者かな？

山形市長の町おこし、町の活性化も新鮮であった。紅花豪商で栄た遺構、山形大学医学部とのラボによる先進医療の町、これは住民健康維持にも大いに寄与する。碁盤の目になっている道路と堰を組み合わせた歩きたくなる町の演出。また、文化芸術活動を通じた持続発展のみちすじ作り。ドキュメンタリー映画祭、芸術系専門学校の誘致。佐藤市長の磨かれた個性が生み出す諸施策、歴史をと地の利を生かした街づくりである。